

第26回  
貨物鉄道論文賞  
募集要綱

2026年4月

日本貨物鉄道株式会社  
貨物鉄道論文賞運営委員会

## 1. 目 的

この賞は、労働生産性が高く、かつ環境性能にも優れた輸送機関である貨物鉄道の発展と利用促進のため、「総合物流を含めた貨物鉄道に関する優れた分析・研究、独創的な提案、実践的な事例の考察」などを顕彰することを目的としています。

## 2. 応募資格

上記内容に沿ったものであれば、個人・グループ・団体・企業を問わず、どなたでも応募できます。年齢は問いませんので、小・中・高校生の皆さんの応募も歓迎します。

## 3. 応募テーマ

上記目的に沿った、「総合物流を含めた貨物鉄道の発展に寄与する分析、提案、事例考察」など、幅広い分野をテーマとします。

※これまでの「最優秀受賞論文」の一覧を本要綱の末尾に掲載していますのでご覧ください。

## 4. 応募方法

- (1) 「応募論文」は、A 4 用紙（40 字×36 行）で 5 枚以上 15 枚以内（図表・写真を除く）、日本語で書かれた未発表論文とします。
- (2) 応募論文とは別に「論文の要約」を A 4 用紙 1 枚に 1,000 字以内でまとめ、ご応募の際に必ず添付して下さい。
- (3) 「応募論文」と「論文の要約」の他に、次の事項を A 4 用紙 1 枚に明記した「応募用紙」を添付して下さい（「応募用紙」は、当社ホームページからもダウンロードできます）。
  - ①住所、②氏名、③年齢、④連絡先電話番号（日中、連絡可能な電話番号）、⑤勤務先又は学校名、⑥本賞を知ったきっかけ（例：雑誌名、当社ホームページなど）、⑦他薦による場合であれば推薦者名
- (4) 上記「応募論文」「論文の要約」「応募用紙」はすべて MS-WORD により作成し、電子ファイルを下記応募先へ電子メールでご送信下さい。また、論文レイアウトの原状を保つ意味から、「応募論文」については word ファイルとは別に PDF ファイルを添付いただくか、印刷した論文を郵送にてご送付下さい。

（注）ご提出をいただきました個人情報に関しましては、賞の選考目的以外には使用しません。

（注）応募方法の条件を満たさないものは審査対象外となりますので、十分ご注意下さい。また、応募いただきました論文は返却いたしませんので、ご了承下さい。

### ■応募先

電子メール [bosyu@jrfreight.co.jp](mailto:bosyu@jrfreight.co.jp)

郵 送 〒108-0075 東京都港区港南一丁目 8 番 15 号 Wビル  
日本貨物鉄道株式会社 貨物鉄道論文賞運営委員会 事務局

5. 応募締切日 2026年9月21日（月）必着

## 6. 結果発表並びに表彰式

『貨物鉄道論文賞運営委員会』において厳正な審査を行い、入賞論文を選考します。各応募者には、2026年11月中旬を目途に事務局より、審査結果のご通知を申し上げます。

なお、入賞者の方を対象とした表彰式を2026年12月3日（木）午後に都内で開催予定です。詳細については事務局より受賞者に個別にご連絡をさせていただきます。

**本年度より表彰内容を変更しました！！**

## 7. 表彰および賞金

- |                     |      |                     |
|---------------------|------|---------------------|
| (1) 最優秀賞            | 50万円 | 総合的に最も優れた論文         |
| (2) BEST Analysis 賞 | 20万円 | 先進的な研究など分析性に優れた論文   |
| BEST Idea 賞         | 20万円 | 独創的な提案など創造性に優れた論文   |
| BEST Practice 賞     | 20万円 | 実践的な事例の考察などに優れた論文   |
| (3) U-25 賞          | 10万円 | 将来が期待される若手の方が執筆した論文 |

※U-25 賞は、(1) (2) の受賞には至らなかった論文の中から、2026年4月1日時点で25歳以下の方が主たる執筆者である論文を対象とします。

なお、JR貨物グループ社員からの応募論文については上記各賞の対象外とし、特に優秀な論文については、「JR貨物社長賞」を授与します。

## 8. 応募特典

応募いただいた方全員に、後日、記念品をお贈りいたします。また、各賞受賞者及び学生の応募者（社会人学生を除く）には、特別特典として「貨物駅の見学」にご招待します。対象となる方には別途ご案内いたします。

## 9. その他

受賞論文は、当社ホームページに掲載いたします。予めご了承ください。

【参考】過去の最優秀賞受賞論文

| 回  | テーマ  | 著者  |
|----|--|---|
| 1  | 日本貨物鉄道株式会社への発展に向けた10の提案  | 日本石油輸送(株)<br>原 昌一郎 様                      |
| 2  | 製品輸送のモーダルシフトの実践 物流環境取り組み事例                                       | シャープ(株)<br>伊藤 幹雄 様                        |
| 3  | 地球環境に優しいグリーン物流の実践<br>鉄道貨物によるモーダルシフトの取り組み事例                       | 東北リコー(株)<br>大友 久芳 様                       |
| 4  | ロジスティクス環境対応における鉄道利用について  | キヤノン(株)<br>山口 雅史 様                        |
| 6  | 国際海上コンテナの鉄道による往復輸送とインランド・ハブ & スポーク方式<br>海上コンテナの鉄道輸送における空コン輸送の効率化 | JUKI(株)<br>荻原 克郎 様                        |
| 7  | 十勝産馬鈴薯のクリーン物流モデル実現への道<br>安心・安全 さらに環境配慮した輸送体系確立に向けた取り組み           | 北海道士幌町農業協同組合<br>久保 武美 様                   |
| 8  | お客様と通運事業者と日本貨物鉄道株式会社の発展のための一考察<br>ノンレール代行便を加味した新たなコンテナネットワークの構築  | 日本通運(株)<br>高木 貴志 様                        |
| 15 | 専用コンテナによるキュービクルの鉄道輸送の実現  | 日東工業(株)<br>水野 正博 様                        |
| 16 | ネスレ日本におけるモーダルシフトの拡大事例と将来への展望                                     | ネスレ日本(株)<br>尾川 太志 様                       |
| 19 | 総合物流企業グループへの発展を目指した「総合物流提案」活動について<br>当社国際事業部の取り組みと課題             | 日本フレートライナー(株)<br>大嶽 王子 様                  |
| 20 | 鉄道輸送におけるモーダルシフトの取り組みと今後の課題について                                   | F-LINE(株)<br>鈴木 章二 様                      |
| 21 | バランスのとれた北海道内物流の構築にむけた貨物鉄道利用促進の再検討<br>～この10年間の社会情勢の変化を踏まえて～       | 北海商科大学大学院<br>永吉 大介 様<br>相浦 宣徳 様           |
| 22 | 中小事業者における物流の諸課題解決に向けた<br>JR貨物の鉄道を基軸とした総合物流の活用について                | (株)アルザック<br>濱中 敏宏 様                       |
| 23 | 積み替えステーションを活用した止めない物流への挑戦<br>～2024年問題・激甚災害への課題解決を目指した新たな仕組みの構築～  | 濃飛倉庫運輸(株)<br>柴田 秀登 様                      |
| 24 | 陸海一貫インターモーダル輸送の可能性と社会効果  | 金沢大学 伊東 尋志 様<br>(合)日本鉄道マーケティング<br>山田 和昭 様 |
| 25 | JR貨物「再定義」の20年(1991年～2011年)<br>－合理化と技術革新が描く、現代物流への教訓と未来図－         | 朝日大学<br>中垣 勝臣様<br>土井 義夫様                  |

《お問い合わせ先》

日本貨物鉄道株式会社 貨物鉄道論文賞運営委員会事務局

TEL : 050-2017-4071

E-mail : bosyu@jrfreight.co.jp

URL : <http://www.jrfreight.co.jp/shourei.html>

